平成 21 年 6 月 24 日

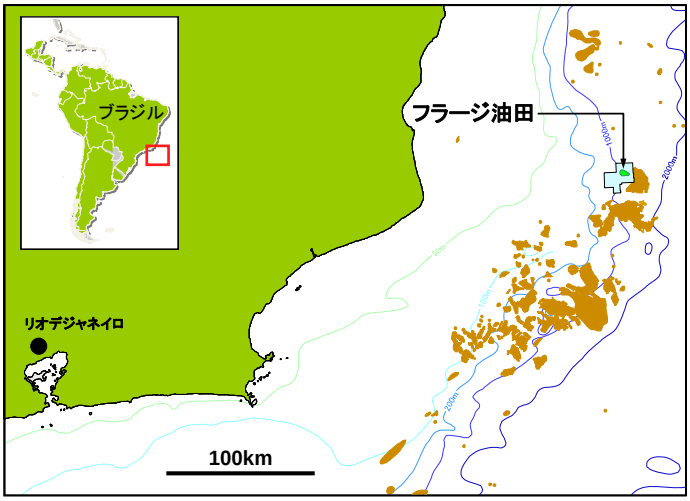
各　位

国際石油開発帝石株式会社
双　日　株　式　会　社

ブラジル連邦共和国　北カンポス沖合フラージ油田からの生産開始について
～ブラジルにおける本邦企業初の油田生産～

国際石油開発帝石株式会社と双日株式会社は、両社および独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）が設立したインペックス北カンポス沖石油株式会社を通じて出資するブラジル現地法人 FJPL 社（Frade Japão Petróleo Limitada）が開発作業を実施しているブラジル連邦共和国北カンポス沖合フラージ油田から、6 月 20 日に原油生産を開始いたしましたので、お知らせいたします。

フラージ油田は、リオデジャネイロ市の北東 370km の海上に位置し、水深 1,050～1,300m にある深海油田であり、約 2～3 億バレルの原油可採埋蔵量が期待されています。本油田は深海部での開発のため、海底仕上げ井と FPSO（浮遊式石油生産・貯油・出荷施設）での開発コンセプトを採用しており、プロジェクト総投資額は、約 30 億ドルです。2011 年には平均日産量 9 万バレルの生産規模となる見込みです。



（ブラジル　カンポス沖　フラージ油田周辺図）

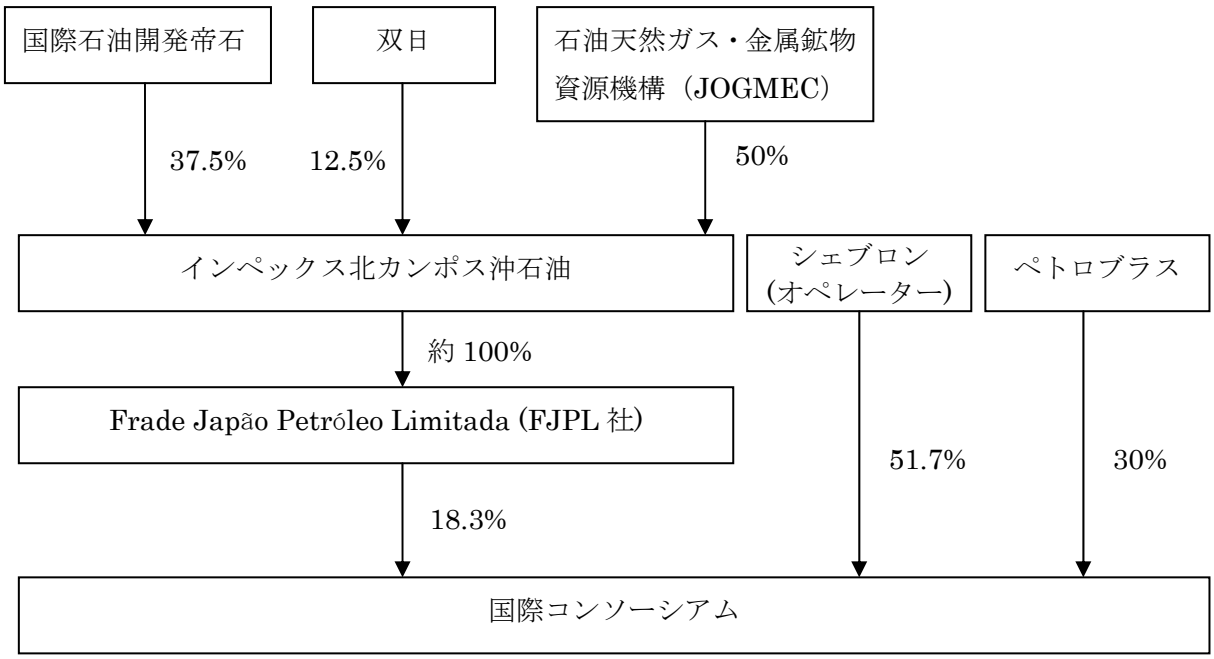
本プロジェクトは、FJPL 社 18.3%、米国シェブロン社（Chevron、オペレーター）51.7%およびブラジル国営石油会社ペトロブラス（Petrobras）30%の参加権益比率で構成する国際コンソーシアムが事業を実施しております。フラージ油田は、1986 年に発見されましたが、探鉱・評価段階にあった 1999 年に、ペトロブラスの実施する入札に参加し、権益を取得したものです。

本プロジェクトはブラジルの石油上流権益の外国資本への開放以来、外国資本によって生産開始に至った 3 番目のプロジェクトです。また、我が国企業がブラジルで石油上流権益を保有する石油開発プロジェクトとして初めて原油生産が実現したもので、日伯両国政府から大きな期待が寄せられておりました。なお、FJPL 社の権益分原油は、スワップにより、本邦に持ち込む予定です。

国際石油開発帝石と双日は、今後とも、さらなるブラジルでの石油開発プロジェクトの開拓に努めて参ります。

以上

＜プロジェクト実施体制図＞



＜補足説明＞

1. インペックス北カンポス沖石油㈱の株主は、独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）50%、国際石油開発帝石㈱37.5%、双日㈱12.5%。
2. FJPL 社は、実質的にインペックス北カンポス沖石油㈱の 100%子会社。ブラジル法では、コンセッション契約上の権益保有者はブラジル法人とする旨が定められているため、1999 年に権益保有会社として FJPL 社を設立した。
3. 国際石油開発帝石㈱および双日㈱は、当時のインドネシア石油㈱および日商岩井㈱が共同で、鉱区権益を 100%保有していたペトロブラスの実施する入札に参加し、当時の

テキサコ社（現シェブロン社）およびブラジルのオデブレヒト社（Odebrecht）とともに新たに事業に参画、12.75％の権益を取得した。その後 2001 年に、オデブレヒト社の全権益（2.25%）を追加取得、また、2006 年に、参入時の権益譲渡契約の条項に基づき、ペトロブラス社の権益が 42.5%から 30%に減少し、これをシェブロン社と応分で取得した結果、権益比率は現在の約 18.3%になった。

【本件に関する問い合わせ】
国際石油開発帝石株式会社　広報・IR ユニット　03－5572－0233
双日株式会社　広報部　03－5520－2299